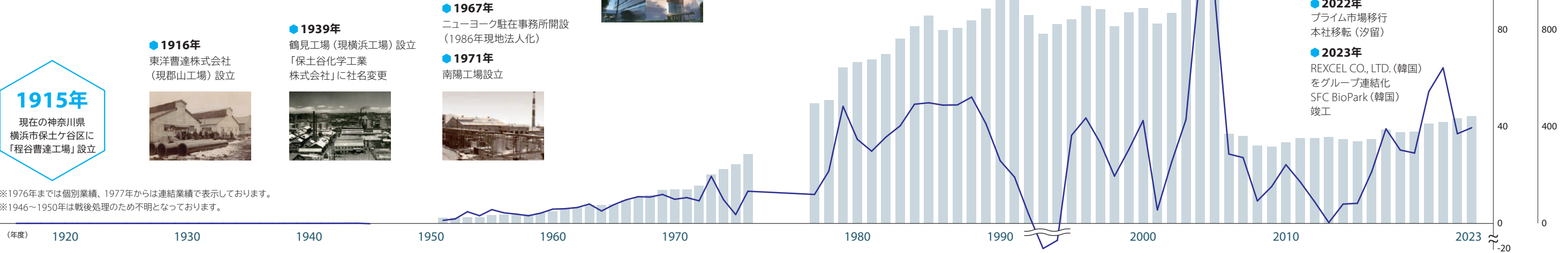


保土谷化学グループのイノベーションの歴史

1916年、保土谷化学は日本で初めて電解法苛性ソーダを製造する企業として誕生しました。創業109年の長い歴史により培われた技術を基に、時代のニーズに応え、絶えざる革新を通じて、染料から農業、医薬中間体、ウレタン樹脂材料、有機EL材料といった、暮らしと社会を支えるさまざまな製品を生み出し続けてまいりました。

保土谷化学グループは、次の100年も、価値ある製品・サービスの創出を通じて、持続可能な社会の発展に貢献する企業として、「SPEED 25/30」を始動し、その歩みを続けてまいります。



1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010	2020
1915年 電解法苛性ソーダの製造を開始（日本初） 	1926年 ホスゲンの製造を開始 1927年 染料の製造を開始 		1950年 農業の製造を開始 	1963年 ウレタン原料（PTG）の製造を開始 1966年 過酸化水素の製造を開始 1967年 日本初のウレタン防水材の製造を開始		1978年 トナー用電荷制御剤（CCA）の製造を開始 	1984年 有機光導電体材料（CTM）の製造を開始 	2001年 有機EL材料・正孔輸送材（HTM）の製造を開始 	2004年 有機EL材料・電子輸送材（ETM）を開発	2017年 過酢酸製剤「オキシアタック」（食品向け除菌剤）の製造を開始 ウレタン防水材「凄極膜」の製造を開始 2020年 PCR診断キット用材料の量産を開始

社会のニーズ	化学産業の輸入依存からの脱却 創業者 磯村 音介	社会の工業化・近代化とともに 総合化学メーカーへ	戦後復興を後押しするさまざまな製品開発	エレクトロニクス時代到来に向けて 電子素材関連へと事業分野を拡大	環境負荷の低い新素材・新製品で環境調和型社会を創造
1914年 第一次世界大戦 1923年 関東大震災	1939年 第二次世界大戦	1950年代 戦後復興 1960年代 高度経済成長 1973年 オイルショック	1985年 プラザ合意 1991年 バブル崩壊	2008年 リーマンショック 2011年 東日本大震災 2020年 新型コロナウイルス感染症流行	

